

2017年度を振り返って

地域連携センター長 村田 信行

2017年度、地域連携センターでは従来の計画以上に多岐にわたる活動を行いました。新たなセンター活動として、長野県とJAながのとの連携「子ども未来応援プロジェクト」の一環で、JAながのより食材を提供いただき、一つは子ども居場所づくりと子育て世代の支援をめざし「子ども食堂・丘の上レストラン清泉」を年6回開店し、さらに長野県の都内サテライト「銀座NAGANO」でのチャリティー販売への協力も開始しました。

また、県の元気づくり支援金事業として、「こども文化祭キッズカルチャーEXPO2017」を10月に開催、親子など多数の参加者を得ました。地域との連携を支援する活動として、千曲商工会議所と学生とのまちづくり連携や、動物介在活動による「いのちの教育」として「スマイル☆キッズわんクラブ」も支援しました。

出張講座に加え、今年度は5月に柳田邦男氏を迎え「こころ豊かに生きる」とは人は物語を生きている」と題して特別講演会を開催しました。公認心理師の制度発足に合わせて、急きょ「公認心理師試験対策の公開講座」も開催しました。

地域活動部門では、復興支援プロジェクトの一つで「飯館村の暮らし〜菅野千代子写真展」を開催。学内のボランティア活動支援として、県へのまちづくりのアイデアを提言する活動や短大生のサークル活動「シェアスマイル」への支援も実施しました。

地域連携センターへ寄せられる地域のさまざまなボランティア活動の求人は多岐にわたる件数も増えていますが、学生への適切な情報提供やマッチングなどの問題点にも今後真摯に取り組みたいと考えます。2018年度は学部にも新学科（文化学科）も開設され、19年度の看護学部新設も控えて、新たな活動などを模索する年にならばと思います。

ながの農業協同組合との包括連携協定

平成29年10月10日、ながの農業協同組合との包括連携協定の調印式が行われました。ながの農業協同組合からは、これまでJAながのの「こども共済みらい基金」を通じて、清泉女学院が開催することも「丘の上レストラン清泉」に食材提供の支援をいただいています。今回さらに産学連携の取り組みの発展・拡大を図るため、包括的な協定を締結しました。今後

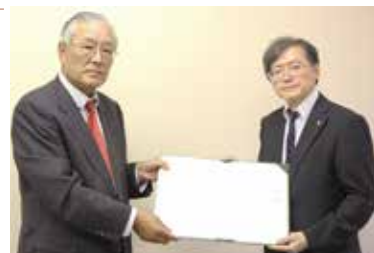
地域からの声

地域連携センターでは、学生の成長とボランティアの質向上のため、ボランティア派遣先の市町村や各種団体にアンケートを実施しています。ご回答いただいた皆様の声をいくつか紹介します。

◆学生ボランティアはお役に立ちましたか？

○運営スタッフ、パネルディスカッションのパネラーとしていくつかの場面で活躍していただいた。来場者への対応、ステージでの発言もしっかりできてとても感心した。（医療団体主催 イベント）

○ゲストへの誠実な対応と元気、笑顔がとてすばらしく大変助かった。ゲストも喜んでお帰りになった。（スポーツ公式試合 来賓控入室対応）



写真左：豊田実組合長、右：芝山豊学長

は相互に協力して農業および産業の振興、教育研究の充実・人材の育成を通して地域の発展に寄与してまいります。

協定締結後のはじめての活動として、10月にビッグハットで開催

○場内のお客様が聞き取りやすい、ていねいなアナウンス（英語で主催者から高い評価をいただいた。（男子バスケットボール日本代表国際試合）

○元気なあいさつ、明るい笑顔で対応してくれた。現場で状況が変わる中、臨機応変に対応してくれた。休憩中でも、気づいた時に周りの人たちの手助けをしていた。（出版社主催 ビックハットイベント）

○笑顔で関わっていただいて子どもたちが安心して遊ぶことができたと思う。準備、片付けでは迅速な行動で、予定より早く終了で



イベント受付



イベントサポート

きた。（須坂市主催子ども向けイベント）

◆改善点：ご要望など

○作業に積極的な学生もいたが、受け身となってしまう学生もいた。（千曲市主催子ども向けイベント）

○今後も、互いに交流できることを期待する。（福祉団体）

○ボランティアの経験が、今後の充実した学生生活の一助になれば幸い。（障がい者スポーツ大会）

されたJA合併一周年記念「アグリフェスタ」と、11月に銀座NAGANOで開催された長野県産の農産物PRイベントに学生ボランティアが販売員として参加しました。農産物の売上金の一部は「こども共済みらい基金」へ寄付されました。



農産物チャリティー販売